

キトラ古墳壁画の集中的な取り外し作業の予定について

1. 作業期間

平成22年10月12日(火)～10月29日(金)

平成22年11月8日(月)～11月25日(木)

(土曜日、日曜日を除く)

2. 作業期間中の主な流れ

月曜日AM 点検、準備

月曜日PM～金曜日AM ヘラ等による壁画の取り外し

金曜日PM 点検、片付け

3. 壁画の取り外し予定箇所

側壁の余白漆喰部分(p. 2～6)

(泥の下に十二支「辰」「巳」「申」の存在が見込まれる部分を含む。)

4. 泥の下に十二支の存在が見込まれる部分を取り外した場合の取扱い

(1) 保存管理について

①取り外し後、壁画の状態を確認し、当面の間、脱酸素剤を同封し、窒素で密封する。

②上記措置により生物被害等を抑えながら、過乾燥にも留意し、経過を観察する。

(2) 内部の状況確認について

別紙(p. 7)を踏まえ、可能な限り早い段階でX線、赤外線等を使用した非破壊調査を行い、内部の状況(画像の有無等)の確認を試みる。

キトラ古墳石室内の状況（平成22年5月現在）

凡例

-  : 石材露出部分
-  : 泥の下に十二支の存在が見込まれる部分



東 壁



西 壁



南 壁



北 壁

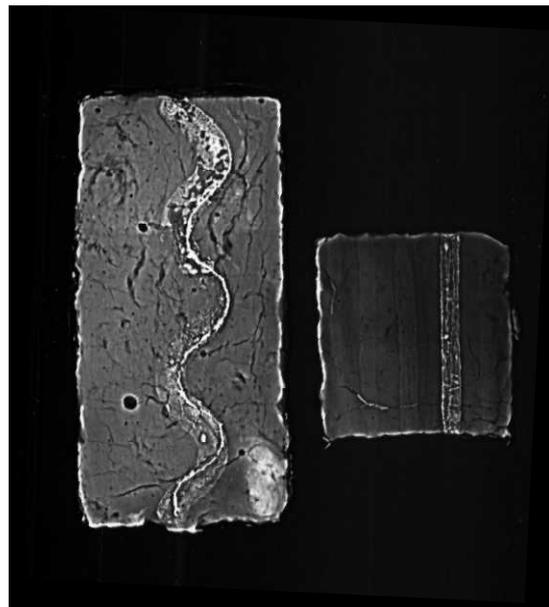


天 井

模造（泥付き）壁画のX線撮影試験について



試験片の可視光写真
(墨と水銀朱の線書き)



試験片のX線透過写真
(水銀朱を厚塗りした箇所が白く見える)

(参 考)

○第2回古墳壁画保存活用検討会（平成20年8月13日）配布資料8より抜粋

3. 保存処置方法

- (1) 剥ぎ取り後、裏面にMC（メチルセルローズ）を用い、レーヨン紙による何層かの仮裏打ちを行い表面に返した後、表打ちを除去。裏面のまま保管する場合は、MCを塗布。
- (2) 脱酸素剤を同封し、場合により窒素を混入した状態で密封した後、保冷庫で保管。
- (3) 状態を確認しながら、保管。状態に変化が生じている場合は開封し、脱酸素剤等の入れ替え等を行い、湿度60%程度まで下げ、安定。
- (4) 安定した壁画は保冷庫から出し、棚に保管したのち、絵のある部分は仮処置を実施。

○第7回古墳壁画保存活用検討会（平成21年12月25日）配布参考資料1より抜粋

※下線部は今回事務局において付した。

(2) 取り外した壁画の仮保存処置

- 取り外した壁画については、保存・展示を行うために標準的な工程によって仮保存処置がなされている。
- 泥に転写された状態で発見された十二支「午」については、現在、保冷庫内で保存しており、当面の間、状態を観察しながら、現状を維持することとする。
- 泥の下に残されている可能性の高い十二支「辰」「巳」「申」については、平成22年度以降、存在が見込まれる部分の取り外しを行い、X線等による調査を行う。その結果、存在が確認された場合には、環境を制御しつつ、現状を維持し、将来の技術開発を待つこととする。